

臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に係る資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 9-1

電話：03-3541-5151

担当者の所属・氏名 皮膚科 中野敏明

【研究責任者】

聖路加国際病院 皮膚科 中野敏明

「皮膚の血管炎の方を対象とした皮膚病理と重症度の相関に関する後ろ向き研究」に関する研究

1.研究の対象

2003年1月から2017年12月までに、聖路加国際病院皮膚科を受診した18歳以上の患者さんの中で、IgAV血管炎（別称：ヘノッホ・シェーンライン紫斑病(HSP)、アレルギー性紫斑病(AP)）と診断または疑われた方。

2.研究の目的・方法

- 白血球破砕性血管炎 (Leukocytoclastic vasculitis: LCV)は、別称、皮膚小血管性血管炎 (Cutaneous small-vessel vasculitis: CSVV)とも呼ばれ、主に皮膚の真皮上層から中層を中心とした小血管壁に炎症を来す全身性血管炎です。これには蛍光抗体直接法で免疫グロブリンのひとつであるIgAが沈着するIgA vasculitis (IgA血管炎(IgAV)またはヘノッホ・シェーンライン紫斑病(HSP))と、IgAが沈着しない群に分けられます。後者ではLCV, CSVV, 皮膚アレルギー性血管炎 (Vasculitis allergica cutis, Ruiter)またはIgAV疑いとして扱われていますが、これまでLCVの全体像を詳細に解析した報告はありませんでした。そこで過去に皮膚生検をしたIgA血管炎患者さんとLCV患者さんの病理組織像所見をパラメータ化して臨床所見も含め比較し、統計学的に解析いたします。成人のIgA血管炎とLCVの臨床像と皮膚病理組織像を解析することにより、LCVの予後と治療法の確立に繋がることが期待されます。この調査では、カルテに記載される内容と皮膚生検した病理組織標本について調査を行います。標本については既に当科外来に保管してあるので、患者様さんにご負担は生じません。調査期間は研究倫理審査委員会承認後～2019年3月31日までの予定です。

3.研究に用いる試料・情報の種類

主なデータ項目は以下となります。

- 《情報》 病歴、ステロイドなどの治療歴、腎症、消化器症状、罹患期間、血清IgA値 等
- 《試料》 病理組織標本（炎症のある血管の数 等）